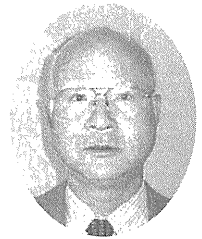


ずいそう

## 3.5% アップの元凶を見た

作 道 忠 明



いささか乱暴なタイトルであるがお許しを願います。数ヶ月前になるが、わが国の経済成長率の予測を1.8%から3.5%アップに変更するとの発表があった。これに関して経済評論家などが今回のアップの要因は、中国の建設ラッシュ等に起因する経済好況に引っ張られたもので、以前（平成6年頃？）にアップした時は公共事業等に対して政府が補正予算を組んだための一時的なものであったが、今回は長続きしそうだとのコメントが出ていたと記憶している。

田舎に住んでいると、東京を始めとする大都會での景気がアップしても今のところは実感がない。最近の新聞報道では今夏のボーナスは過去最高の支給額であったといわれている。わが市辺りでは大都會より数年は経済の動向は遅れるものらしい。

さて、6月22日から25日の間に天津市、北京市、西安市を訪問し、見学する機会を得た。主たる目的は高松市内に本社がある東洋工業（株）の天津工場（コンクリート製の擬木を主に製作して日本に出荷している。正式の名称は天津東洋混凝土制品有限公司）の視察にあった。

6年ぶりの訪中であり、経済の成長度がすばらしく早いと聞いていたため、その実態を貪欲に見ることを楽しみにして天津空港に向かった。着陸態勢に入ってから天津郊外の道路を見ると、最近整備されたものかAs舗装が黒く見え区画線も鮮明である。片側（以降すべて片側車線数を言う）2~3車のものが数ルート見え、立派なICもあった。市内見学では天津TV塔（展望箇所は東京タワーの展望所より高い場所のようであった）から360度見渡せ、オリンピックのサッカー場の建設現場も見た。それよりも中心地近くでの再開発現場である4~5階くらいあるアパート群（里弄風の建物）を取り壊し、15Fくらいに建て替えている区画が沢山見えた。案内役の社長（総経理）の話では、北京市ではこんな規模ではないらしい。

23日天津市から北京市に向かう。高速道路（大部分は2車）の走行は2時間弱だが、中心地からICまでの乗り入れ時間と降りてから北京市内に入る混雑を経て3時間位かかり中心部に到着した。ここで見たビルの建設ラッシュはものすごいもので、かつての東京オリンピックやバブル全盛期の東京における建設ラッ

シュの比ではない。世界各地から集めたとされる建設用クレーンの林立する情景は何にたとえればよいのだろう。高さは30F位までであるが独立で建設したり、幾棟かずつ並列に建設したりしている。街の中では里弄（リーロン：2F程度で華洋折衷の長屋形式の建物）を取り壊して道路を拡幅し、民有地側にビルを建設している。その数は指折り数え切れないほどである。これがわが国の経済情勢を変えた元凶かとおつくづく眺めたものである。写真を撮影したが、この日は霞がかかったような状態であったため、ASA-400のフィルムでも鮮明に写らなかった。翌日の24日に2時間半ばかり飛んで西安市に入った。

空港から市内に入る高速道路は完成してからそんなに経っていないようだ。立派な2車である（今回走った高速道路はすべて建設資金ということで料金を取っていた）。でも、通行車は少ない。シルクロードの西の出発点といわれている西安市街地方面で二十数本の建設用クレーンが見えた。郊外近くにJCTがあったが全て橋梁による立体交差で、平地でしかも農耕地（畑）であるのに盛土部分が無い（西安市でも平地が広く、山が遠いため盛土材が高価となるので高架の方が経済的な工法選択(?)と思った)。

以上のように中国の住宅を始めとするインフラ整備の勢いはものすごいものである。ここに7月15日付けの建設通信新聞の記事から、欧米建設企業の中国市場の実績を見てみると、レイトン（独）、ギャモン（スウェーデン）、ヴァンシ（仏）、ビッグ（仏）、ベクテル（米）の5社の投資、請負額は4,106百万円にもなっている。わが国の建設企業もたくさん進出しているのであろうが手元に資料がない。オリンピック開催のための施設建設、その他のインフラ整備に関し、投資も高額で行われているようである。

今回は主として北京市周辺をただけである。上海市でもすごい建設ラッシュであると聞いている。これらが関連して、わが国の船運を始めとして鋼材、セメントなどの生産を促し、価格を上昇させ、経済を成長させてくれるのであろう。

——さくどう ただあき 株式会社四電技術コンサルタント・

取締役道路部長——